

《担当者名》若松千裕 wakamatsu@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

本講義では、失語症学とともに、言語聴覚療法の対象である失語症の診断の枠組み、評価基準、治療の理念と方法、回復・予後について理解する。

【学修目標】

<一般目標>

言語聴覚療法の対象である失語症の診断と治療法を実施するために、失語症の診断基準、失語症の主要な症状と病巣との関連、失語症の治療法の理念と方法、回復・予後について理解する。

<行動目標>

1. 失語症患者に対する評価・診断の基準を説明できる。
2. 失語症の主要な症状と病巣の関連を説明できる。
3. 失語症患者に対する治療の理念と方法を説明できる。
4. 失語症の回復・予後について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	失語症の評価診断	失語症の治療プロセス（評価診断の枠組み、評価診断のための情報収集）	若松千裕
2	失語症の評価診断	失語症の症状分析・タイプ分類	若松千裕
3	失語症の評価診断	失語症の発話分析1（非流暢性発話）	若松千裕
4	失語症の評価診断	失語症の発話分析2（流暢性発話）	若松千裕
5	失語症の評価診断	失語症の症状と病巣	若松千裕
6	前半のまとめ	失語症の評価診断のまとめ	若松千裕
7	失語症の治療	失語症の治療プロセス（評価診断から言語治療） 失語症の回復・予後	若松千裕
8	失語症の治療	失語症の治療の理念と治療法（刺激法、Deblocking Method、機能再編成法）	若松千裕
9	失語症の治療	失語症の治療法（認知神経心理学的アプローチの基本概念）	若松千裕
10	失語症の治療	失語症の治療法（認知神経心理学的アプローチによる分析）	若松千裕
11	失語症の治療	失語症の治療法（実用的コミュニケーション訓練、その他）	若松千裕
12	失語症の治療のまとめと予後	失語症の治療まとめ、臨床への応用、失語症者支援	若松千裕

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート20% 定期試験80%

【教科書】

【備考】

Google Classroomを使用して課題の提示と提出を行う。

【学修の準備】

予習では、講義内容を確認し、教科書と参考書を読んでおくこと（80分）。

復習では、教科書と講義で配布された資料を整理し、講義内容の理解を確実にすること。知識が不正確な箇所については、必要な情報を調べること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

（DP4）関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】

若松千裕（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かし、失語症の診断・評価、治療・訓練に関する基本的知識および実践について講義する。